

夕花野

松岡隆子

登高やふるさとの山見ええずとも
この先はもう踏み込めぬ烏瓜
遠く見て近づいて見て櫛紅葉
松手入漢の黙のよかりけり
五人目は池のなかより松手入
松手入池より梯子引きあぐる
花薄そこだけ風のたちにけり

木の実落つ音のいつより昏れてきし
もう数へきれなくなつて櫟の実
帰らねば帰らねばとて夕花野
月光の花野の径をゆくは誰ぞ
さみしさの捨てどころなくひよんの笛

冬の到来と共に新型コロナウイルス感染拡大の新たな波が押し寄せてきた。状況を見ながら再開に踏み切った本部例会も今後どうしたものかと思索している。四月に行うはずだった「葉」創刊三周年記念の集いも無期延期の状態になつているが、ここにかけては残念ながら取り止めざるを得ない。準備を手掛けてくださった実行委員の方々や、期待して待っていてくださった皆さまにはまことに申し訳ないが、現況に鑑みご理解いただきたい。二年後の春には五周年を迎える。五周年には三周年の分まで盛大に集い合いたいと思う。